

全国訪問教育研究会

第37回全国大会（東京）開催要項

2024年4月20日

■実行委員長挨拶■

全国訪問教育研究会第37回大会を東京で開催します。
コロナ禍の4年間、リモートで行うことを余儀なくされてきましたが、今年は5年ぶりにみんなで集い、語り合い、学び合う全訪研大会が戻ってきます。

この4年余は、全国大会どころか「訪問できない訪問教育」など、様々な制約と不安のなかで訪問授業が模索されてきたことと思います。そして、リモートや教材の工夫などによって新たな授業づくりの可能性が見いだされもしたことでしょう。けれども、何よりも私たちが強く実感したのは、訪問教育の授業で大切にしてきた直接交流（対面での授業、ふれ合い、文化の共有など）のかけがえのない重要さだったのではないかと思います。

今回5年ぶりの対面開催にあたり、対面での交流、学び合いの価値を改めて感じ合うことができる大会にしたいと準備が進められてきました。大会テーマ副題は「語りあおう 学びあおう ねがいを集めて」としました。この「ねがい」の中には本当にたくさんの思いが凝縮していると感じています。

そのひとつは、大会シンポジウム『卒業しても学び続けたい！』の願いに応える未来を目指してです。青年期、成人期の生活を、もっともっとゆたかにしたい！高等部訪問教育実現から20余年、学びの継続は新たな、そして切実なねがいです。東京における様々な取り組みから学び、そして交流したいと考え、多分野の方々にシンポジストをお願いしました。2日目は全訪研が最も大切にしてきた分科会を4時間にし、共同研究者の方のレクチャーも含めて十分な学びができるよう設定しています。

恒例だった全国大会を全国のみなさんが心待ちにして、夏の予定に入れて声を掛け合って参加して下さっていたときは少し違い、大会参加を決断するにはエネルギーが必要かもしれません。けれども、訪問教育の新たな一ページを共に開く大会になると期待しています。今まで大会に参加をさせていただいていた方々とは「久しぶりー！」と直接握手をかわせるよう、また、初めて参加される方々とは「初めまして！」と挨拶できるよう願っています。

ぜひ多くの方が東京に参集されますよう、心よりお待ちしております。

全国訪問教育研究会第37回全国大会（東京）実行委員長
猪狩 恵美子（元・全国訪問教育研究会会長）

■大会テーマ■

「一人ひとりのいのちが輝く教育をめざして～語りあおう 学びあおう ねがいを集めて」

■開催日時■

2024年8月6日（火）13:00～17:00（受付開始 12:00）
8月7日（水）9:30～15:45（受付開始 9:00）

■会場■

立正大学 品川キャンパス（東京都品川区大崎4-2-16）
（JR大崎駅または五反田駅 徒歩5分 東急池上線 大崎広小路駅 徒歩1分）

■主催■

全国訪問教育研究会

■後援■（申請中を含む）

文部科学省・こども家庭庁
 全国特別支援教育推進連盟・全国特別支援学校肢体不自由教育校長会
 全国特別支援学校知的障害教育校長会・全国特別支援学校病弱教育校長会
 社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会・全国訪問教育親の会・全国病弱教育研究会
 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会・認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク
 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
 東京都教育委員会

■大会日程

8月6日（火）		8月7日（水）	
13:00	開会行事・基調報告（～13:50）	9:30	分科会
14:00	シンポジウム（～16:00）	11:30	休憩
16:15	全訪研総会（～17:00）	13:00	分科会（～15:00）
		15:15	閉会行事（～15:45）

※8月7日(水)の昼食は各自でご用意ください。

■内容■

- （1）全体会（開会行事） 8/6(火) 13:00～13:50
- ①開会挨拶 榎木 暢子（全国訪問教育研究会会長）
 - ②実行委員長挨拶 猪狩 恵美子（元・全国訪問教育研究会会長）
 - ③親の会より 福田 智佳子（全国訪問教育親の会）
 - ④基調報告
 - ⑤開催地からの報告：東京の訪問教育の概要と、遠隔授業やスクーリングを通して友達との関わりを深めた事例を紹介します。

（2）大会記念シンポジウム 8/6(火) 14:00～16:00

- タイトル 『卒業しても学び続けたい！』の願いに応える未来を目指して
- 企画協力 重度障害者・生涯学習ネットワーク
- ねらい（趣旨）

障害者の生涯教育は、2014年日本政府が批准した障害者権利条約では「生涯学習を確保する」とし、2015年国連サミットで採択されたSDGs（2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標）では、「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」としている。また、文部科学省は、2017年4月に「障害者学習支援推進室」を新設し、2018年度からは「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を開始している。

病気や重い障害のある子どもの教育において、①養護学校義務制開始（1979年）、②医療的ケア児の教育、③病院内学級等の設置、④高等部訪問教育試行（1997年）、⑤不就学者の教育を受ける権利の復権など、訪問教育は大きな役割を果たしてきた。そして、6番目の課題が生涯学習であり、特に外出が困難な訪問生にとって、学校卒業後も継続的に学べる「訪問型生涯学習の創設」が願いである。

本シンポジウムは、訪問生の学校卒業後の学び（生涯学習）の保障の現状と課題に関する報告をもとに「訪問型生涯学習のニーズと制度創設」について考える場としたい。

<シンポジスト>

●訪問型生涯学習支援の事業者

「ぼくにも学校がやってきた」

大石恒子さん（日野市障害者問題を考える会・副代表）

●訪問型生涯学習支援で学ぶ学生・保護者

『訪問大学おおきなき』で学んだこと」

倉本雅代子さん（訪問大学おおきなき・学生の保護者）

●特別支援学校の進路担当者

「特別支援学校高等部訪問生の進路指導」

櫻井真紀子さん（東京都立多摩桜の丘学園 肢体不自由教育部門 高等部 進路担当）

●訪問型生涯学習支援を広げる活動

「生きることは学ぶこと、学ぶことは生きる喜び」

飯野 順子さん（重度障害者・生涯学習ネットワーク・会長）

●東京都・インクルーシブな学び 東京 コンソーシアム担当者

『インクルーシブな学び 東京 コンソーシアム』が目指す学びの共生社会」

大嶋 尚史さん（東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課）

<コーディネータ>

檜木暢子（全国訪問教育研究会会長／訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学）

(3) 全訪研総会 8/6(火) 16:15～17:00

全訪研の昨年度の活動、今後の活動方針について話します。

(4) 分科会 8/7(水) 9:30～11:30 13:00～15:00

	分科会名	分科会のねらい（◆共同研究者）
①	健康・身体づくり	障害が重く、日常的にさまざまな健康管理の必要な子どもに対するかかわりについて考えましょう。姿勢づくりや呼吸支援等、子どもの活動を引き出すために必要なことについて講義と実践を交えて交流しましょう。 ◆竹脇真悟（埼玉県立宮代特別支援学校）
②	コミュニケーション	重度・重複障害児とのコミュニケーション関係を築くための支援や配慮について、訪問での教育実践について交流しましょう。重症児と言われる子どもたちは「反応がつかめない」「応答が乏しい」と言われがちですが、丁寧な関わりで意思表示や心の内面を捉えていく実践やその方法について話し合ひましょう。 ◆細淵富夫（長野短期大学教授）
③	授業づくり・教育課程Ⅰ	授業・教材づくり、複数訪問やスクーリング、行事への取り組みなど、日々の実践や悩みを交流しあひましょう。教育課程の視点から、訪問学級の子どものためにふさわしい学びと生活について討議しましょう。 よろしければ、教材もご紹介ください。 ◆木下博美（全国訪問教育研究会 元副会長）
④	授業づくり・教育課程Ⅱ	表出や表現を援助する手段として、ICT機器等が活用されています。GIGAスクール構想の推進で配布されたタブレット端末等の活用を含めて、教材や授業づくりについて学び合ひましょう。 よろしければ、教材もご紹介ください。 ◆谷本式慶（都立村山特別支援学校副校長）

⑤	病院や施設における教育	<p>“生きる力を育む”いのちの輝く教育を求めて、病気療養児や施設入所児者の教育内容・方法や、院内学級・分教室・病院内施設内訪問教育の実践を深めていきましょう。</p> <p>◆※依頼中</p>
⑥	教育と地域での生活支援 －医療・福祉・教育の連携	<p>子どもたちの学びと生活を豊かにするためには、「地域の中で生きる」視点での生活支援、卒業後の進路を見通した指導、アフターケア、社会参加など、地域支援のネットワークづくりが大切になっています。医療的ケアを必要とする障害の重い子どもたち、内部疾患のある子どもたちなど、様々な障害のある子どもたちの就学前から在学中、卒業後までの教育と地域での生活を考えていきましょう。</p> <p>◆岩崎京子（東京都医療的ケア児等支援センター多摩 医療的ケア児等コーディネーター主任相談支援専門員）</p> <p>◆下川和洋（全訪研全国事務局・NPO 法人地域ケアさぽーと研究所 理事）</p>

●分科会でのレポート発表を希望される方へ

次の①～④について、6月20日までにレポート担当宛に連絡をお願いします。

レポート担当者より、印刷部数やレポート送付先を連絡します。

- ①分科会名・氏名・学校名または所属先名
- ②メールアドレス
- ③レポートタイトル
- ④レポート内容に関して、個人情報保護の配慮が必要かどうか

・発表されたレポートは、全訪研の研究集録「訪問教育研究 第37集」に掲載させていただく場合があります。原稿依頼を受けた際はよろしくをお願いします。

<レポート担当> 全国訪問教育研究会 全国事務局 栗山 弘子 h-kuri@peach.ocn.ne.jp

●レポート発表に関して

- ・大会実行委員会で用意できる視聴覚機器は、原則として、プロジェクターとスクリーンです。パソコン、ビデオ、その他の機器を使用する場合は、各自でご用意ください。
- ・会場で用意するプロジェクターへの接続はHDMI端子です。それ以外の接続端子が必要な場合、変換ケーブルが必要です。変換ケーブルをお持ちでない場合は担当者までお問合せください。

●大会参加者へのレポートの配布について

- ・各レポート配布はレポートの判断を尊重します。個人情報保護の観点から、原則として、発表される分科会の中のみ配布となります。
- ・各分科会の内容は、2025年1月発行の「訪問教育研究第37集」に掲載されます。会員、一般で参加申込みされた方には送付致します。学生・保護者（家族）で申し込まれた方で「訪問教育研究」がほしい場合は、当日、大会受付までご連絡ください。

(5) 閉会行事 8/7（水） 15：15～15：45

- ①実行委員長あいさつ
- ②全訪研会長からの謝辞
- ③大会宣言
- ④次期開催地から一言
- ⑤閉会あいさつ
- ⑥歌「小さないのち」

■申込みについて■

○申込み期間

<事前申込み> 5月1日（水）～ 7月30日（火）

下記を参照して、Peatixからお申込みください。事前申込み料金になります。

<当日申込み>

7月31日以降はPeatixから申込みできません。参加申込みは、会場の当日受付でお願いします。当日申込み料金になります。

○参加費（※1日のみ参加、2日間参加ともに下記の参加費になります。）

<事前申込み 5/1～7/30>

会員：3000円（研究収録あり）

一般：5000円（研究収録あり）

学生・保護者（家族）：1000円（研究収録なし）

<当日申込み>

会員：4000円（研究収録あり）

一般：6000円（研究収録あり）

学生・保護者（家族）：1000円（研究収録なし）

※上記の研究収録は「訪問教育研究第37集」です。今回の大会の内容や訪問教育に関する資料が掲載されており、2025年1月発行予定です。

※参加費の払い込み後、大会に参加できなくなった場合、参加費は返金できません。ご了承ください。

○申込方法

①、②のどちらかの方法で申し込んでください。（学校からの出張等の場合は、下記★を参照）

今大会の申込はチケット販売サービス「Peatix」を使用します。

①下記のURLまたはQRコードからPeatixのサイトを開き、「チケットを申し込む」からお申込みください。

<http://zenhoken2024tokyo.peatix.com>



②全国訪問教育研究会ホームページから申し込む。

<http://zenhoken.com> から全訪研ホームページに入れます。

全訪研ホームページ→「全国大会」をクリック→開催要項が開きますので、申込方法のページにあるURLからPeatixのサイトを開き、「チケットを申し込む」からお申込みください。

※申し込まれた方にはPeatixから「チケットお申し込み詳細」のメールが届きます。スマホや携帯電話から申し込まれる方は、tickets@peatix.comからのメールを受け取れるようにしておいてください。Peatixからの「チケットお申し込み詳細」のメールが届かない場合には、次頁の問合せ先（全国事務局長）までご連絡ください。

★学校等、所属先から公金参加の場合には上記の方法で申込みできません。事務局で代わって申し込みますので、次頁の問合せ先（全国事務局長）までご連絡ください。

◎宿泊先の用意はこちらでは行いません。各自で手配をお願いします。

◎今大会では「保育」は行いません。心配なことがありましたら、下記の全国事務局長までご連絡ください。

■問い合わせ先■

<全国事務局長>長 正晴 chou_masaharu@yahoo.co.jp

<全訪研会長> 榎木 暢子 kashiki.nagako.mc@ehime-u.ac.jp

○全訪研ホームページ <http://zenhoken.com> （こちらから開催要項のダウンロードができます。）